

2018年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

1 本校が目指すもの

(1) 目指す学校像

学校像1	さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、 仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校 (No student left behind)
学校像2	生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、 入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校 (Overachievement)
学校像3	生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校 (We love “Tokufu.”)

(2) 目指す生徒像

生徒像1	自己成長感 （「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、 自己効力感 （「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、 自己有用感 （「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った生徒 (Self-esteem)
生徒像2	自己指導能力 （その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒 (Self-guidance)
生徒像3	自立と社会参加に必要な基礎的・基本的な知識・技能とソーシャル・スキル （他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）を身に付けた生徒 (Social-skills)

(3) 目指す職員像

職員像1	多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く 協働の姿勢と利他の精神 (Collaboration&Altruism) を体現した職員
職員像2	目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける 専門職 (Profession) としての姿勢を体現した職員

2 学校経営課題

(1) 生徒募集について

生徒募集関係業務（中学校訪問、オープンキャンパス、入学試験）について、志願者・入学者増につながる効果的な在り方を研究し、できることから実施していきます。

(2) 学校経営の改善について

平成30年度中に「学校経営改善計画案」を策定します。

ア 総合コース再編案の策定

既設の「ネイルアート講座」、「グローバル・コミュニケーション講座」等のほか、どのような講座を開設すればよいか、生徒募集につながる特色ある新たな講座の教育内容を検討し、再編案を策定します。

イ 平日サポートコース活性化案の策定

津駅から徒歩数分という「地の利」を生かし、生徒募集につながる魅力的な教育課程を編成するとともに、広報活動の強化を図ります。

ウ 新たな技能連携校の確保

昨年度を最後に専修学校1校との技能連携が取り止めとなったことから、新たな技能連携先となる専修学校の確保に向けた広報活動等に努めます。

(3) 徳風技能専門学校高等課程の教育課程について

上記(2)アの取組との関連を図りながら、現在の「商業実務」に加えて新たな分野を設置することなども視野に入れ、魅力ある教育課程となるよう調査研究を開始します。

3 当面の重点実践項目

本校独自の特色ある教育活動や仕組み等を「徳風スタイル」として整理しながら、「目指す学校像・生徒像」の実現に向け、平成30～32年度の3年間、次の3つの取組を「重点実践項目」として計画的に実践します。

重点実践項目	計画概要
1 自学自習方式による「積上げ学習」の実施	・平成30年度から、総合コースの選択講座「グローバル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の受講生を対象に、英語の公文式教材を新たに導入。 ・その成果と課題を検証し、平成31年度から毎年度、総合コース1・2年生を対象に、英語・数学・国語の公文式教材による「積上げ学習」を導入。
2 知識活用型授業・課題解決型授業の実施	・「主体的・対話的で深い学び」を追求する授業を全教科で実践できるよう、平成30年度から授業研究を全校体制で実施。
3 ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)の実施	・平成30年度入学生を対象にSSTを正規の授業として新たに実施。 ・その成果と課題を検証し、平成31年度から毎年度、入学生を対象にSSTを実施。

4 本年度の計画と自己評価

以下において、「目指す状態」欄には概ね3年後に実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ具体的に記入しています。

(1) 教育活動

ア 学習指導

現状と課題	共通的な取組よりも各教員の自主的な工夫に任されている。今後は、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の在り方について校内研修等を行い、更に共通理解を深める必要がある。		
目指す状態	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す「積上げ型授業」と知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。		
実践内容	○「授業研究プロジェクト」の活性化	評価結果	同プロジェクト主導で英語科と音楽科による合科授業を行ない、授業参観シートを活用した授業研究を実施。 検証の結果、同教材は有効であることが分かった。 校務分掌に同プロジェクトチームを位置付け、同チームを中心に教材を見直し、次年度からの実施を決定済み。
	○授業参観シートを活用した授業研究の実施		
○公文式教材を活用した「積上げ学習」の効果の検証			
○「亀の山」(毎日始業前に全生徒を対象に実施している朝学習)に関するプロジェクトチームを新たに立ち上げ、教材等の在り方を見直すなど集中的に検討する。			
評価指標	○生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒6割以上	51%の生徒が「学力が向上した」と回答	
	○職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員5割以上	42%の教員が「授業力が向上した」と回答	
行動計画	「授業研究プロジェクト」を更に活性化させ、授業研究を継続する。また、「亀の山」の最適な教材とその活用方法を引き続き探求する。		

イ 生徒指導

現状と課題	生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNS を介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談への対応の充実を図る必要がある。		
目指す状態	全教員が、生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）について共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。		
実践内容	○頭髪・服装指導に関する共通実践としての取組年3回以上実施	結果	年8回実施
	○非常勤講師を含む全教員による共通実践項目1つ以上の決定と完全実施		授業妨害への対応を共通実践。
○特別支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年10回以上実施	ケース会議は各学年で多数回実施。		
評価指標	問題行動による特別指導件数年5件以内		年28件
行動計画	生徒指導部の年間指導計画の中に全教員による共通実践項目を組み入れ、共通理解を十分図ったうえで実践する。		

ウ 進路指導

現状と課題	自分の進路決定に依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。インターンシップや企業見学に生徒が主体的に取り組めるよう指導の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒が、自分の進路について必要な情報を得たり教員・保護者等と相談したりしながら、主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。		
実践内容	○生徒・保護者対象の進路説明会等必要な進路関係行事の計画的実施	結果	保護者説明会や進路ガイダンスなど予定通り実施。
	○企業・大学見学時のマナー、アポの取り方、面接の受け方などの計画的指導		指導通り生徒自ら見学のアポを取り、日程調節を行えた。
評価指標	希望どおり進路実現を果たした生徒8割以上		約9割の生徒が希望通りの進路を実現。
行動計画	早くから生徒一人一人の進路希望を把握し、目標を設定させ、就職先確保を目指した関係情報の収集と就業先開拓を行う。		

エ 安全・健康指導

現状と課題	保健室を利用する生徒も多く、精神面も含めた健康指導や個別の相談業務など、種々の対応に負われる状態が続いている。今後は、専門スタッフの配置も視野に入れ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について、抜本的に検討する必要がある。		
目指す状態	生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、安全・健康指導面での人的・物的な態勢が整っている。		
実践内容	○特別支援を必要とする生徒に関する「個別の指導計画」を作成・活用し、校内委員会、ケース会議、事例検討会を年10回以上実施	結果	「個別の指導計画」作成を始めたが、同計画に基づく校内委員会等は未実施。ケース会議は適時多数回実施。
	評価指標		心身の健康状態が年度当初に比して改善されたと考えられる生徒多数
行動計画	普段から声掛けに努めて生徒の状況把握を行ない、そうした取組で得られた情報を「個別の指導計画」に反映させる。		

オ 特別活動

現状と課題	友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考えて行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら学校で楽しく集団生活を送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを向上させる必要がある。		
目指す状態	生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、集団の一員として自己有用感を実感しながら学校生活を送っている。		
実践内容	○社会的自立や社会貢献を念頭に置いた体験活動（ボランティア活動等）の実施	結果	亀山市社協の依頼を受け、街頭募金活動を実施。
	○ソーシャルスキルトレーニング（SST）に関するプロジェクトチームを新たに立ち上げ、平成30年度入学生を対象にSSTを特別活動の正規の授業として新たに実施。		1学期に同プロジェクトチームを立ち上げ、2学期に人権学習の一貫として全学年でSSTの授業を実施した。
評価指標	生徒満足度調査で「コミュニケーション能力が向上した」と回答した生徒6割以上		58%の生徒が「コミュニケーション能力が向上」と回答

行動計画	今後もSSTを継続的に実施するとともに、その成果を活かせるよう生徒が地域住民等社会と接する機会をできる限り確保する。
------	--

カ 部活動

現状と課題	運動部、文化部それぞれ10部近く結成されているが、年間を通じて活動している部は多くない。また、PTA等が組織されておらず、東海大会・全国大会に出場する生徒に対する予算支援がないため、出場生徒の保護者の負担は大きい。今後は、まずは生徒会が中心となって部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。		
目指す状態	多くの部が年間を通じて計画的・自主的に活動し、その成果が体育祭・文化祭や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。		
実践内容	生徒会による部活動活性化に向けた取組を指導助言する。	結果	実施できなかった。
評価指標	年間を通じて計画的・主体的に活動する部の数10以上	結果	冬季になるとほとんどの部が不活発である。
行動計画	生徒中心に部活動が継続できるよう、年度当初の「クラブ紹介」を生徒会役員が中心となって進める。		

キ 総合コース

現状と課題	生徒に複数の講座から選択受講させているが、希望者少数のため開講できない講座がある。各講座の一層の魅力化を図るとともに、特に昨年度新たに開講したグローバル・コミュニケーション講座については内容の充実を図る必要がある。		
目指す状態	生徒が自己の目標、興味・関心等に応じて講座を主体的に選択し、意欲的に学んでいる。また、ネイルアート講座等では、多数の受講生が各自の目指す検定試験に合格している。		
実践内容	○ネイルアート講座の受講生が学習成果を校外で発表する場を年5回以上設ける。 ○グローバルコミュニケーション講座について、英語の公文式教材を新規導入し、その効果的な活用方法等を検討するとともに、英語による言語活動の多様性を確保する。	結果	年4回実施。 公文式教材での学習が中心となり、5割の生徒がグレードを1つ上げ、学習意欲を高めた。
評価指標	○ネイルアート講座の受講生の7割以上が自己の目指す検定試験に合格 ○グローバル・コミュニケーション講座の受講生の6割以上が「公文式教材を使った積み上げ学習に概ね満足」と回答		受講生の6割が合格。 受講生の7割が「概ね満足」と回答。
実践内容	○生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒6割以上		対象生徒の7割が「概ね満足」と回答した。
行動計画	本年度立ち上げた「学校改革委員会」が策定した改革案に基づき、総合コース再編活性化のため、2020年度から段階的に講座の入れ替えを行なう。		

ク ドッグケアコース

現状と課題	生徒間で専門的な知識・技能に関する個人差が大きく、検定合格に向けたきめ細かな対策が必要である。また、生徒が身に付けた専門性を生かせる希望進路を実現できるよう、個に応じた進路ガイダンスと進路開拓に努める必要がある。		
目指す状態	犬との接し方や各犬の課題等の改善方法を「見える化」するなどして全生徒・教員が共有しており、生徒全員が目指す検定試験に合格するなどして希望進路を実現している。		
実践内容	○夏季・冬季休業中にトリミング講習会を学年・級別に5講座開講 ○特別支援学校、福祉施設等でのドッグセラピー実習を年10回以上実施	結果	全て予定通り実施できた。 特別支援学校の都合で一部未実施。その他は予定通り実施。
評価指標	○ドッグマスター検定全員合格 ○ドッグトレーナー検定2級に全対象生徒の6割以上合格 ○ドッグトリマー検定2級に全対象生徒の3割以上合格		3年生は全員合格。 対象生徒の約6割が合格。 対象生徒の約7割が合格。

	○生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒7割以上	84%の生徒が「コースの授業に概ね満足」以上と回答。
行動計画	ドッグセラピー実習を近隣の小学校で実施する。また、コースシラバスの生徒への周知徹底を図り、各検定の合格率を向上させる。	

ケ パソコンコース

現状と課題	生徒間で検定試験の合格状況、社会人に求められるコミュニケーション能力やマナーの習得状況に格差がみられることから、情報関係の検定試験合格を全生徒の目標に据えるとともに、コミュニケーション能力及び社会人マナーの向上に関する検定試験の実施環境を整備する必要がある。	
目指す状態	全生徒が複数の情報関係の検定試験を受験し、合格している。また、ITパスポート試験等の国家試験の受験者が増加している。	
実践内容	○市民向けパソコン講座の実施	結果 同講座を新たな内容で実施。高評価を得た。 情報系進路研究の位置づけで学校外での学習活動を実施。 国家試験対策の特別講座を実施し、合格者を輩出。
	○企業見学等学校外における学習活動の計画的実施	
	○検定試験対策に特化した夏期特別講座等の実施	
評価指標	○生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒7割以上	79%の生徒が「コースの授業に概ね満足」以上と回答。
行動計画	ICT活用及び新たなIT機器の導入等について検討する。	

(2) 学校運営等

ア 教育環境の整備

現状と課題	防水工事や設備更新を必要とする箇所がある。計画的に対策を講じていく必要がある。	
目指す状態	工事・修繕等を計画的に行い、自然災害等が発生しても生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。	
実践内容	○軽度の要修繕箇所の即時対応	結果 3箇所の防水工事、専門教育棟トリミング室の電気水道拡充工事、高圧遮断機（SOG）取替工事及び体育館内バスケットボールのゴール耐震補強工事をそれぞれ完了。 策定できなかった。 上記の通り5件の工事が完了した。
	○防水工事等の計画的着工	
	○普通教室ICT化に向けた実施計画の策定（予算編成、補助金活用など様々な観点から実施計画を策定）	
評価指標	防水工事等年度内着工3件以上	
行動計画	地下女子トイレの洋式化や一部普通教室のエアコン取替等、優先順位を付けた修繕・工事の計画的実施に努める。	

イ 組織運営

現状と課題	職員間・分掌間の連携・協力や職員個々の知識・経験・情報の共有が十分とは言えない。今後は、その要因を探り、研修の充実や組織体制の見直しなど必要な対策を講じる必要がある。	
目指す状態	職員一人一人が職員間・分掌間で「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら意欲的に職務を遂行し、「役割間の隙間にある業務は自分の仕事」という意識を持っている。	
実践内容	○職員会議での組織力向上に関する意識啓発文書の配付年5回以上	結果 年7回配付 完全実施は中学校訪問の改善、オープンキャンパスの改善、特別支援教育コーディネータの設置等数項目のみ。 還流報告は年数件のみ。 37%の職員が「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答
	○昨年度の「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」14項目の完全実施	
	○学校内外の成果や情報などの環流報告年10件以上	
評価指標	職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員6割以上	
行動計画	年度末反省の集約結果を踏まえた「重点改善事項」の完全実施。	

ウ 学校満足度

現状と課題	昨年度新たに実施した生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる必要がある。		
目指す状態	生徒・保護者・職員対象の学校満足度は高い状態が続いている。		
実践内容	○生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を適切な時期に実施。	結果	各満足度調査を12月に実施。
	○昨年度の「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」14項目の完全実施(再掲)		完全実施は中学校訪問の改善、オープンキャンパスの改善、特別支援教育コーディネータの設置等数項目のみ。(再掲)
評価指標	生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒・保護者・職員各6割以上		生徒60.2%(52.7%)、保護者67.8%(62.0%)、職員42.1%(21.1%)が「概ね満足」と回答。()は昨年度。
行動計画	来年度も各満足度調査を引き続き実施するとともに、別途実施する「年度末反省」の結果等を踏まえ、各満足度を高めるための具体策を立て、実施する。		

5 「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」(平成30年3月一部改訂 文部科学省)を踏まえた自己評価

別紙『「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」(平成30年3月一部改訂 文部科学省)による自己点検の結果と対応方針』のとおりです。

6 本年度の学校関係者評価

平成31年3月1日に学校関係者評価委員会を実施し、委員から出された主な意見は次のとおりでした。

- 授業研究について、本年度の教科横断的な合科授業等を今後も積極的に行い、生徒の学習意欲を喚起してほしい。
- 問題行動による特別指導について、増加した要因を分析したうえで、その結果に応じた対策を講じながら、該当生徒を進級・卒業に向けて指導を継続してほしい。
- 生徒の対人コミュニケーションスキルについて、グループで行う学習活動を多く取り入れるなど、創意工夫を生かした指導により向上させてほしい。
- 職員の職務遂行の在り方について、「報告・連絡・相談・確認」が徹底されていない。意識改革が必要である。
- 学校満足度について、生徒と保護者は概ね評価指標どおりの満足度を達成しているが、現状のまま停滞することなく「8割」を目指してほしい。また、職員の満足度が低い要因を分析し、その結果に応じた対策を講じながら、組織運営の改善等に継続的に取り組んでほしい。

7 次年度に向けた主な行動計画

- (1) 徳風技能専門学校学則を一部改正し、2020年度から徳風技能専門学校高等課程において、商業実務高等課程国際ビジネス科に加え文化・教養高等課程総合科を新設し、同校専門課程において、商業実務コンピュータ専門課程を商業実務専門課程に課程名変更し、コンピュータ科に加えトリミング科を新設する予定です。
- (2) 徳風技能専門学校高等課程と徳風高等学校普通科(全日型コース)との関係を次表のとおりとする予定です。また、徳風高等学校・徳風技能専門学校間の技能連携を取り止め(県外の専修学校とは継続)、学校教育法施行規則第98条第1号の規定に基づく「大学、高等専門学校又は専修学校等における学修の単位認定制度」(独自に「高専併修」と呼ぶ。)を新たに導入し、技能連携制度と同様に、徳風技能専門学校における学修を徳風高等学校における科目の履修とみなし、当該科目の単位を認定することとする予定です。

徳風技能専門学校		徳風高等学校普通科 (全日型コース)	学校外における学修等の単位認定
課程(分野)	学科		
商業実務高等課程	国際ビジネス科	パソコンコース	大学、高等専門学校又は専修学校等における学修の単位認定制度(学校教育法施行規則第98条第1号)
		ドッグケアコース	
文化・教養高等課程	総合科	総合コース	

- (3) 本年度立ち上げた学校改革委員会が3つのテーマ(「総合コースの再編活性化」、「平日サポートコースの活性化」、「学校全体の魅力化・特色化」)について取りまとめた「三重徳風学園学校改革案」(平成31年2月11日策定)を踏まえ、新たに「学校経営改善計画」を次年度当初に策定し、順次実施していく予定です。